

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：民生費 項：児童福祉費 目：児童福祉諸費

事業名 重症心身障がい児者いきがい創出支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部医療福祉連携推進課 障がい児者医療推進係 電話番号：058-272-1111 (内 2628)

E-mail：c11230@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,500千円 (前年度予算額：4,000千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	4,000	2,000	0	0	0	0	0	0	2,000
要求額	3,500	1,750	0	0	0	0	0	0	1,750
決定額	3,500	1,750	0	0	0	0	0	0	1,750

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

在宅の重症心身障がい児者及び介護者に対し、そのニーズに基づいた各種メニュー事業を行うことにより、地域社会の中で潤いのある生活を送ることができるよう支援し、運動機能の低下防止と情緒の安定、家庭における介護者のリフレッシュを図り、重症心身障がい児者の福祉の増進を図る。

(2) 事業内容

○事業メニュー

①社会参加促進事業

文化的活動やレクリエーション活動に参加することにより、いきがいの高揚や情緒の安定を図る。

(例) 地域でのコンサートや人形劇等の開催

文化施設等への日帰り旅行や社会見学の実施

②家庭リフレッシュ事業

専門の介助者を伴った外出宿泊を行うことで、社会体験を上げるとともに、保護者の心身のリフレッシュを図る。

(例) 文化観光施設等への体験旅行の実施

③地域交流事業

地域住民との交流の機会を設けることにより、在宅生活における孤独感の解消を図るとともに、障がい者に対する地域の理解を促す。

(例) 地域の各種行事への参加支援

地域住民との交流イベントの開催

④健康管理促進事業

健康不安に対する医学的相談や機能訓練の指導を行うことで、健康の維持増進と、自立意欲の向上を図る。

(例) 専門訓練士によるリハビリ相談会の開催

(3) 県負担・補助率の考え方

国 1/2、県 1/2

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	3,500	社会福祉法人等への委託料
合計	3,500	

決定額の考え方

事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

在宅の重症心身障がい児者及び介護者に対し、そのニーズに基づいた各種メニュー事業を行うことにより、地域社会の中で潤いのある生活を送ることができるよう支援し、運動機能の低下防止と情緒の安定、家庭における介護者のリフレッシュを図り、重症心身障がい児者の福祉の増進を図る。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
実施主体	(H14)	6 (H23)	4 (H30)	4 (R1)	6 (R3)	66%
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	

○指標を設定することができない場合の理由

(前年度の取組)

<R1 年度の取組>

4 箇所の重症心身障がい児者の支援を実施している社会福祉法人及び団体において、岐阜県内に在住する在宅の重症心身障がい児者及びその保護者を対象に、そのニーズに基づいた各種メニュー事業を行った。

(前年度の成果)

<R1 年度の成果>

4 箇所の社会福祉法人及び団体において、在宅の重症心身障がい児者及び介護者に対し、そのニーズに基づいた各種メニュー事業を行うことにより、地域社会の中で潤いのある生活を送ることができるよう支援し、重症心身障がい児者の運動機能等の低下防止と情緒の安定、あわせて家庭における介護者のリフレッシュを図った。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い 	
(評価) ○	在宅の重症心身障がい児者及び介護者は、日頃の療養や介護により外出の機会が極めて限られている中、本事業では地域社会の中で潤いのある生活を送ることができるよう支援することを目的に、重症心身障害児者の運動機能等の低下防止や情緒の安定、あわせて家庭における介護者のリフレッシュを図ることができるため、本事業の必要性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	令和元年度は、懇親会や外出行事等について、合計で約 930 人ほどの参加があり、在宅の重症心身障がい児者及び介護者の本事業に対するニーズは高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある 	
(評価) ○	より多くの重症心身障がい児者及び介護者が、地域社会の中でうおいのある生活を送ることができるよう、事業の実施方法の効率化を図る。

(今後の課題)

地域社会の中で潤いのある生活を送ることができるよう支援するとともに、地域交流をより一層推進し、重症心身障がい児者及びその保護者の地域との関わりを深めていく。
--

(次年度の方向性)

実施主体となりうる事業所等と連携して、地域交流事業の積極的な実施に努める。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	